

平成21年9月15日

静岡県知事 川勝 平太 様

伊豆の自然を考える会

代表 山本里子

東伊豆風力発電施設建設にかかわる保安林解除を認めないことを求める陳情

私たちは、「静岡に“日本の理想”を創る」という信念を表明して就任された貴職に大きな期待を寄せるものです。

私たち「伊豆の自然を考える会」は4年前から伊豆地域に大型風力発電施設（ウインドファーム）計画が集中している現実に危機感を持ち活動してきました。活動を通して、風力発電施設についての制度がいかにか企業よりであり、殆ど法規制がないといったほうがよい状態にあることを痛感してきました。自然保護に関する規制が確立していない状況で、二酸化炭素削減効果のみが強調され、全国に巨大施設の建設が進められています。静岡県では前知事の、「しずおか風トピア街道推進計画」と銘打った風力発電施設建設誘致政策のもとで、伊豆半島から遠州灘一帯にかけて発電施設建設が急ピッチで進められてきました。

私たちの会は、「三筋山風力発電計画」（東伊豆）に関して、三筋山一帯が伊豆半島の中でも最も生物多様性が保存されている地域であり、景観の上からも防災上からも維持保存されるべき重要な地域と考え、計画当初より事業者計画変更を求めると共に関係各機関に働きかけてきました。一昨年、資材搬入路が東伊豆町から河津町に急に変更になり、着工が決定してしまいました。以後、活動の手がかりがないまま今に至っておりますが、今回、保安林解除申請がまだなされていないことを知り、お願いをする次第です。

保安林指定地域が守られて残ることにより、生態系の頂点に位置する猛禽類の山稜にまたがる移動が確保され、それによって三筋山全体の生態系が守られることにつながります。貴重な三筋山の生態系が保持されるかどうかは、ひとえに保安林指定解除がされるか否かにかかっていると言えます。

私どもは貴職が、「伊豆はジオパークである」と発言されたことにも大きな期待を寄せております。自然豊かで地学的にも価値がある三筋山一帯に巨大風車が林立する様はジオパークにはなじまないものと考えます。

東京電力（株）と（株）ユーラス・エナジー・ジャパンにより東伊豆町と河津町にまたがる三筋山に計画されている大型風力発電施設建設にともなう保安林解除について、「解除を認めない」方向で担当部局をご指導いただきたくお願い申し上げます。

保安林解除を認めないことを求める理由

- 1 草原・森林・湿原の三つの異なった環境が、狭い範囲に存在するところはほかにはない。故に生物多様性が保持されている。

食物連鎖の頂点に位置する猛禽類は県内で20種確認されているが、この一帯だけで実に16種類確認されている。全国生息数1万羽と推定される希少種のクマタカが営巢しており、絶滅が危惧される動植物（静岡県レッドリスト記載種）は56種にも及んでいる。私たちの会が生息を確認した種だけでも44種にのぼっている。

県農林技術研究所の戦略課題研究「伊豆半島の特徴的な景観とその自然環境」のなかで、**細野高原の草地植生と湿地植生は昆虫も含め希少種の宝庫で、県内でも最も貴重性の高い自然環境であると述べられている。**

（細野高原とは草原・湿原を含む三筋山山麓に広がる一帯をさしている）

添付資料 希少種・重要種リスト
希少動植物写真

- 2 三筋山は雄大な天城山系の一部であり、県内随一の美しい草原を有していて、大海原に浮かぶ伊豆七島の景観と相まって絶景をなしている。八丁池から三筋山の峰に連なる天城三筋山遊歩道は360度視界が開かれている。東伊豆風力発電施設は、まさにこの遊歩道に沿って計画されている。三筋山山稜に連なる巨大風車群はこの雄大な景観を損なうものである。
- 3 この地域は保水力の低い火山性の稲取泥流層からなる。大規模な森林伐採や山稜の改変により土砂流出などの災害が引き起こされる可能性が高まる。また、流失した土砂が海の生態系に影響を及ぼす。
- 4 過去の被災記録やその後の研究から、三筋山周辺は断層に囲まれている地域であることが明らかにされている。東海沖や相模湾における巨大地震発生時の風車の安全性が危惧される。